

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員の
ワンポイントアドバイス

営農指導員 永奥 肇

グラジオラスの栽培

経営上の特性

通常は初夏から盛夏にかけて開花する夏の代表的な花の一つで、豊富な花色の品種が開発されています。

球根単価は比較的安価で、他の球根類に比べて初心者には取り組みやすい花きであるといえます。



作型

4月から5月にかけて露地に順次植え付けることで、7〜8月に開花します。

少し工夫をして、球根を冷蔵したものを植え付けると、秋に開花させることもできます。

栽培の方法

①ポイント

ほ場は日当たりが良く、排水の良い所を選びます。この花は連作

を嫌うため、新作地を選びます。

②植え付け

植え付けてから開花までの期間は約100日です。出荷の予定から逆算して順次植え付けます。冷蔵した球根を遅くに植え付けると、他にグラジオラスがない秋に出荷できます。

植え付けの間隔は15センチ程度とします。

なお、どの球根類にもいえることですが、深めに植え付けることが生育にとって大切です。

③肥料

基肥として、1アール当たりの成分量でチッソ、リン酸、カリ共に1・0〜1・5キロ施用します。なお、チッソ肥料が多すぎると、茎が軟弱となり、病気にもかかりやすくなります。

④病害虫

▼葉や茎、球根が侵される首ぐされ病や硬化病があります。これらはいずれも球根で伝染するので、信頼のおけるところから球根を購入入することが大切です。

▼ハダニ類。梅雨明け後、高温乾燥で発生が多くなります。殺ダニ剤で発生初期から防除することが大切です。

問い合わせ

農業振興課 農業振興係
0824・73・1132

第8話



比婆いざなみ街道物語

街道沿線に存在するさまざまな資源をシリーズでお伝えする「比婆いざなみ街道物語」。

前号でピックアップした、古民家「長者屋」に宿泊してみましたので、その様子をレポートします！

生まれ変わった古民家「長者屋」

「長者屋」は、江戸時代の中期に建てられた入母屋造りの農家で、牛小屋と人の暮らす家の屋根が一つにつながった造りをつなげた造りを残す、文化的価値の高い建物です。



築250年が経過し、老朽化のため取り壊しも検討されたそうですが、地域の方の「『長者屋』を守りたい」という思いが実を結び、宿泊施設としてリノベーションされました。

週末は満室となる状況が続いていることから、今回は平日を狙って宿泊しました。

古民家の造りを生かしたおしゃれ空間

室内に入ると、まずその広さに驚きます。そして、黒を基調とした和モダン風のおしゃれな空間は、まるで都会の高級ホテルと見まがうような雰囲気ですが、天井を見上げると竹で編まれた天井板

が見え、ここは古民家だということを感じさせられます。

モダンな雰囲気にもマッチした真っ黒の天井。実はいりりから長年上がったすすによるもので、あえてそのままの状態にしてあります。古民家に暮らした者でなくても、どこか懐かしい感覚を覚える室内空間。古き良き里山の生活スタイルに思いを馳せながら、滞在時間を楽しみました。

季節の移ろいを感じる

四季折々で姿を変える里山・比和町三河内地域の景色。かつては、たたら製鉄が盛んだったこともあり、その名残ともいえる鉄穴残丘を生かした柵田が目前に広がります。宿泊した時期はちょうど稲刈り前。たわわに実る稲穂が夕日に照らされて黄金色に輝くその風景は、まさに日本の古き良き原風景！ 時が経つのを忘れて見入ってしまう美しさでした。

改修によりWi-Fi環境や最新型のキッチン、こだわりのベッドやお風呂、寒さ対策の床暖房など、快適装備が完備されています。「長者屋」で、ぜひ古民家ステイを楽しんでみてください。

問い合わせ

いちばんづくり課 いちばんづくり係
0824・73・1278